

令和6年(2024年)上半期火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和6年上半期の火災発生件数は11件で、前年同期と比べ2件の増加となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が6件で1件の増加、車両火災が2件の皆増、その他の火災が3件で1件の減少となっている。

火災による焼損棟数は11棟で、前年同期と比べ3棟の増加となっている。焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が3棟で2棟の増加、半焼が1棟の皆増、部分焼が2棟で増減なし、ぼやが5棟で増減なしとなっており、焼損面積は床面積が220平方メートルで425平方メートルの減少となっている。

火災による人的被害は死者がなく1人の皆減となっており、負傷者が1人の皆増となっている。

り災世帯は、全損が2世帯で1世帯の増加、小損が6世帯で1世帯の増加、り災人員は16人で3人の増加となっている。

火災損害額合計は686万9千円で、前年同期と比べ3,875万7千円の減少となっている。損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が686万8千円で3,875万4千円の減少、その他の損害が1千円で3千円の減少となっている。

出火原因の状況については、火入れ、その他が各3件で、たばこ、焼却炉、ストーブ、取灰、不明が各1件となっている。

前年同期と比べ火災件数は増加しているが、放火による火災は発生がなく、今後も更に放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

## 火災状況

区 分		年 別		令和6年 (2024年)	令和5年 (2023年)	前年との 比 較
出火件数 (件)	計			11	9	2
	建	物 火 災		6	5	1
	林	野 火 災				
	車	両 火 災		2		2
	船	舶 火 災				
	航	空 機 火 災				
	そ	の 他 の 火 災		3	4	△ 1
焼損棟数 (棟)	計			11	8	3
	全	焼		3	1	2
	半	焼		1		1
	部	分 焼		2	2	
	ぼ	や		5	5	
焼損面積	建 物 (㎡)	床 面 積		220	645	△ 425
		表 面 積				
	林	野 (a)				
人的被害 (人)	死 者				1	△ 1
	負 傷 者			1		1
り災世帯 (世帯)	全 損			2	1	1
	半 損					
	小 損			6	5	1
り 災 人 員 (人)				16	13	3
損 害 額 (千円)	計			6,869	45,626	△ 38,757
	建	物 損 害		6,868	45,622	△ 38,754
	林	野 損 害				
	車	両 損 害				
	船	舶 損 害				
	航	空 機 損 害				
	そ	の 他 の 損 害		1	4	△ 3
	爆	発 損 害				
1日平均損害額 (千円)				38	252	△ 214
市民1人あたりの損害額 (円)				95	625	△ 530
火災1件あたりの損害額 (千円)				624	5,070	△ 4,446
建物火災1件あたりの焼損床面積 (㎡)				37	129	△ 92
出 火 率 (件/万人)				1.5	1.2	0.3

△は減少を示す

## 救急概要

令和6年上半期の救急出動件数は2,119件、搬送人員は1,986人で前年同期と比べ出動件数は22件、搬送人員は56人増加し、1日平均11.6件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病1,509件、一般負傷353件、交通事故125件で全体の93.8%を占め、以下、転院搬送68件、労働災害16件、自損行為10件、運動競技6件、加害4件、火災、水難が各1件、その他26件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、急病36件、交通事故、加害が各4件、水難1件の増加に対し、運動競技9件、労働災害7件、自損行為3件、一般負傷、転院搬送が各1件、その他が2件の減少、火災は増減なしとなっている。

搬送人員1,986人の傷病程度については、死亡43人、重症56人、中等症799人、軽症1,088人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の54.8%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合を見ると、交通事故78.8%、一般負傷68.5%、急病51.1%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内42.6%、久御山町内27.3%、宇治市内18.9%、京田辺市内8.3%、京都市内2.3%、その他の京都府内、他府県が各0.3%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習の実施はなく、普通救命講習I（3時間）を12回189人、その他の講習を28回1,070人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で1.0%増加、搬送人員で2.9%の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の占める割合は72.2%となっており、前年同期と比べると4.2ポイントの増加となっており、高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

## 救急状況

年 別 区 分		令和 6 年(2024年)			令和 5 年(2023年)			前年との比較		
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)
事 故 種 別	火 災	1		1	1		1			
	自 然 災 害									
	水 難	1						1		
	交 通 事 故	125	2	118	121		117	4	2	1
	労 働 災 害	16		16	23	1	22	△ 7	△ 1	△ 6
	運 動 競 技	6		6	15		15	△ 9		△ 9
	一 般 負 傷	353		340	354		335	△ 1		5
	加 害	4		4				4		4
	自 損 行 為	10		7	13		9	△ 3		△ 2
	急 病	1,509		1,426	1,473	2	1,361	36	△ 2	65
	そ の 他	転 院	68		68	69		69	△ 1	
医 師 搬 送										
資 機 材 搬 送										
そ の 他		26			28	1	1	△ 2	△ 1	△ 1
合 計		2,119	2	1,986	2,097	4	1,930	22	△ 2	56
不 搬 送 件 数 ( 件 )		142			174			△ 32		
出 動 延 べ 員 ( 人 )		6,679			6,554			125		
1 日 平 均 出 動 件 数 ( 件 )		11.6			11.6			0		
1 日 平 均 搬 送 人 員 ( 人 )		10.9			10.7			0.2		
1 日 最 多 出 動 件 数 ( 件 )		21			22			△ 1		

△は減少を示す

### 傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他(人)	計(人)	比率(%)
死亡	39	1		3	43	2.2
重症	39	5	5	7	56	2.8
中等症	619	19	102	59	799	40.2
軽症	729	93	233	33	1,088	54.8
その他						
計	1,426	118	340	102	1,986	100.0
軽症者比率(%)	51.1	78.8	68.5	32.4	54.8	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

### 収容先別救急搬送人員状況

収容先別 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他(人)	計(人)	比率(%)
城陽市	624	45	151	26	846	42.6
久御山町	357	49	110	27	543	27.3
宇治市	295	11	45	25	376	18.9
京田辺市	111	13	31	9	164	8.3
京都市	38		2	6	46	2.3
その他の京都府内	1		1	3	5	0.3
他府県				6	6	0.3
計	1,426	118	340	102	1,986	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

## 年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年齢別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
新生児						
乳幼児	56	1	16	1	74	3.7
少年	32	13	6	5	56	2.8
成人	288	60	35	40	423	21.3
高齢者	1,050	44	283	56	1,433	72.2
計	1,426	118	340	102	1,986	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

## 救 助 概 要

令和6年上半期の救助出動件数は39件で前年同期と比べ9件の増加、活動件数は23件で1件の減少、救助人員は15人で4人の減少となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、交通事故の出動件数は5件で活動件数が4件、水難事故の出動件数は2件で活動件数が2件、建物等による事故の出動件数は16件で活動件数が16件、ガス及び酸欠事故の出動件数は1件で活動はなし、その他の事故の出動件数は15件で活動件数が1件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、交通事故では4人を救助し、死亡及び中等症が各1人、軽症が2人、水難事故では2人を救助し、死亡及び重症が各1人、建物等による事故では9人を救助し、死亡及び重症が各1人、中等症が3人、軽症が4人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

## 救助状況

年 別 事故種別	令和6年 (2024年)			令和5年 (2023年)			前年との比較		
	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災				1	1	1	△ 1	△ 1	△ 1
交 通 事 故	5	4	4	2	2	2	3	2	2
水 難 事 故	2	2	2				2	2	2
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	16	16	9	15	14	11	1	2	△ 2
ガス及び酸欠事故	1						1		
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	15	1		12	7	5	3	△ 6	△ 5
合 計	39	23	15	30	24	19	9	△ 1	△ 4

△は減少を示す

## 事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	不 搬 送 (人)	
火 災								
交 通 事 故	4	4	1		1	2		
水 難 事 故	2	2	1	1				
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	16	9	1	1	3	4		
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
そ の 他 の 事 故	1							
合 計	23	15	3	2	4	6		